

平成29年度活動報告（地域交流事業）

構成団体名 高知県立大学

（事業名）高知医療センター・高知県立大学の合同災害訓練

（実施時期）2017年11月5日（日） 高知県立大学池キャンパス

（事業の概要）本学は、高知医療センターと包括的連携協定に基づき実施している連携事業を実施している。今回実施した本避難訓練もその1つである。

発災に応じて、軽傷者、帰宅困難者、地域住民の方々を受入、避難所運営等を含む総合的な訓練が行われた。今回は高知県国際交流協会と連携し、同協会日本語を学んでいる受講者7名（ミャンマー4名、フィリピン2名、ネパール1名）及び本学の外国人在学生（インドネシア2名、ネパール1名）に外国人居住者傷病者の役に扮していただいた。参加の方々からは、日本での災害訓練に参加することで災害や防災への意識を高めることができ、非常によい経験となったとの反応を得ることができた。また、運ばれた病院で対応する医療スタッフとの間の言葉の壁により生じる困惑と混乱を確認する場となり、今後の訓練の内容改善に資する課題に気づく機会となった。



平成 29 年度活動報告（留学生交流事業等）

構成団体名 高知県立大学

（事業名）エルムズ大学（アメリカ合衆国）短期研修生受入及び交流 20 周年記念事業
（実施時期）2017 年 5 月 27 日（土）～6 月 9 日（金）

（事業概要）本学と国際交流協定を締結しているエルムズ大学の学生 6 名が本学で 2 週間の短期研修を実施した。研修中、学生はホストファミリー宅で過ごし、日本文化や日本事情を学んだ。また、室戸青少年自然の家での 1 泊旅行、県内企業や高校学校への視察や訪問を通じ、日本の社会や文化を多面的に学ぶ機会を提供した。プログラムを終えた学生は、ホストファミリーや本学の学生たちとの別れを惜しみつつ帰国した。

2017 年は、エルムズ大学と本学との国際交流 20 周年という節目となった。6 月 2 日（金）、「エルムズ大学と高知県立大学の絆と未来への道しるべ～20 年の交流と未来への挑戦～」を開催した。コーディネーターとして、本学前学長南裕子名誉教授、パネリストとしてエルムズ大学ジョイス・ハンプトン教授、京都学園大学古木圭子教授、本学副学長兼国際交流センター長五百藏高浩教授、ゲストスピーカーとして公益財団法人高知県国際交流協会光井綾様、本学非常勤講師クリス・ライオンズ先生を交えての座談会を設け、これまでの両大学間の交流を振り返るとともに、今後の交流のあり方を議論した。在学生、現教職だけでなく、本学同窓会会員の方々、本学名誉教授の先生方にも参加いただき、盛況のうちに終了した。



(事業名) タイ、ウボンラーチャタニ大学 (タイ) 短期研修派遣

(実施時期) 2017年5月27日(土)～6月3日(土)、8月17日(木)～8月30日(水)

(事業概要) 国際交流課交流協定締結大学のウボンラーチャタニ大学主催の短期研修(The 6th Language and Culture Camp 2017 (5月)、Short-term Exchange Program 2017(8月))に、社会福祉学部の学生2名、文化学部の学生2名を派遣した。ウボンラーチャタニ大学は世界中の協定校から学生を集め、異文化交流を目的としたプログラムを組んでいる。

研修先の大学には日本語学科があり、日本語授業に参加し、日本についての発表や、質疑応答などが行われた。ウボンラーチャタニ大学日本語学科の先生方とも交流があり、大変刺激を受け、多くのことを学ぶことができ、自己成長を遂げることができた研修になったとの報告があった。今後も派遣を継続したい。



(事業名) アンダラス大学 (インドネシア) Student Mobility Program 事業

(実施時期) 2017年10月2日(月)～10月31日(火)

(事業概要) 国際交流協定締結大学であるアンダラス大学看護学部の学生2名に対し、1ヶ月間の研修プログラムを開講した。本学開講の専門分野の授業を体験受講しながら、県内の訪問看護ステーションや保健所の見学の機会を活用するなどして専門分野の知識を増やし、日本語の授業及び日本文化体験の場を経ることで日本を理解し本学学生との相互理解を図った。加えて、2人の英語でのプレゼンテーション能力の高さ、学ぶということに対する非常に真摯な姿勢は本学の学生にとってもよきロールモデルとなった。2名の学生は帰国後も本学と交信を続けている。

